

適正施設ガイドライン

【ハリヨ *Gasterosteus microcephalus*】

2020年9月

公益社団法人日本動物園水族館協会

1 飼育環境

1-1 水温

未成魚・成魚共に年間を通じて 15℃前後が望ましい。

夏場の水温は 20℃を超えないように室内や水槽にクーラーが必要である。

1-2 設置場所

極寒期を除いて通年繁殖に参加する傾向があるが、飼育下では日照、気温、水温等において概日・概年リズムが阻害されないような配慮が必要。

1-3 照明（日照、人工照明、照明時間長）

湧水環境特有の水温に変化がない環境でも、室内飼育では窓際に水槽を設置すれば成熟に至ることから、照明時間はタイマーを利用し夏と冬で自然日長にあわせるとよい。照明は自然光、人工照明（蛍光灯、LED 灯、ハロゲン灯など）のどちらでも良い。

1-4 水槽サイズ 面積、容積

稚魚期が終了し親魚の育成に至っては 120 cm水槽（120×60×60 cm、容量 432ℓ）に 30 個体程度で繁殖が可能な全長 5 cm以上の体サイズの大きな親魚に育て上げることができる。親魚のペアリング、営巣、産卵に至っては FRP 水槽（130×85×70 cm、水量約 500ℓ）を屋外に設置した水槽が適している。

1-5 構造、設備、水槽の数

1) 未成魚・成魚

過密飼育する場合は細かい大磯や硅砂 1～3 mmを敷いておくと残餌、残渣が分解され水質が安定する。底砂を敷かない場合は、まめに残渣等を吸い出さないと真菌の発生を助長しやすいので注意する必要がある。

2) 卵・仔稚魚

冷水循環が可能であれば複数の水槽を準備するのが望ましい。仔魚の段階では浮カゴ、稚魚期は 45 cm水槽（45×30×30 cm、水量約 40ℓ）または 60 cm水槽（60×45×45 cm、容量 120 ℓ）、90 cm水槽（90×45×45 cm、容量 180ℓ）水槽で飼育する。



写真1 仔稚魚・親魚育成水槽



写真2 ペアリング・営巣水槽

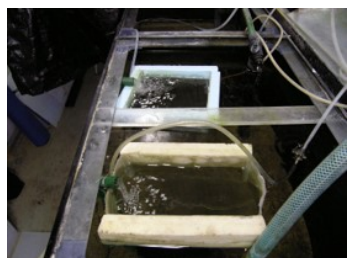


写真3 浮カゴ

1-6 飼育水（水質）

冷水環境を維持できるのであれば河川水や地下水または塩素を中和した水道水でも問題はない。